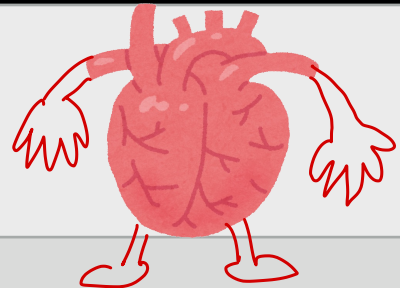
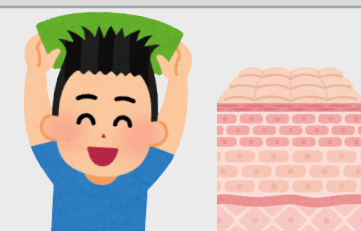
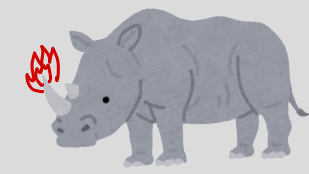


九刺：九変に应ずる刺法

九刺	用途	刺す場所
輸刺（ゆし）	五臓の病	毫鍼、員鍼、鍤鍼などで手足末端近くの輸穴（榮、兪、原穴）を刺す 
遠道刺（えんどうし）	腑の病(病が上にある時)	毫鍼で膝周圍やその下にある穴（下合穴）を刺す 
経刺（けいし）	経脈の病	毫鍼で経脈上の反応（結絡・経分）にやや深く刺す 
絡刺（らくし）	絡脈の病※出血	毫鍼や三稜鍼で血絡を浅く刺して瀉す。絡脈に刺す絡刺（刺絡）
分刺（ぶんし）	分肉の間(肌肉の邪気)	毫鍼・員鍼で分肉の間を刺す（分肉：皮下脂肪と筋肉の境界） 
大瀉刺（だいしゃし）	大膿を瀉す※出血	鈹鍼で膿血を瀉す 
毛刺（もうし）	皮膚の浮瘰のとき	毫鍼や鑱鍼で皮膚のごく浅いところを刺す（皮毛に刺す） 
焮刺（さいし）	筋瘰のとき	燔鍼（焼き鍼）を圧痛点に刺す 
巨刺（こし）	経脈の病	病左側にあれば右側に、右側にあれば左側に経刺する※反体側治療 
びゅうし 繆刺（りゅうし）	絡脈の病※出血	症状のある側の反対側の手足末端の井穴や血絡を絡刺する※反体側治療

ゴロ：九死に湯エンドウ。経絡ブーン代車、毛布最古の龍（反体側コリコリ）